

とめNNだより

令和4年3月発行
第27号

「とめNNだより」は、農業農村整備部(通称 NN 部)の広報広聴活動の一環として、登米管内の農業農村整備事業に関連する活動を広くお知らせする目的で、年4回発行を予定しております。掲載内容についてお問い合わせ等ありましたら、管理調整班までご連絡ください。

【東部地方振興事務所登米地域事務所農業農村整備部広報広聴委員会】

■第2回令和3年度多面的交付金に係る研修会を開催しました

令和4年3月1日(火)、ほ場整備「伊豆沼2工区」のほ場にて、第2回令和3年度多面的交付金に係る研修会を開催しました。本研修会は、近年、多面的機能支払交付金事業に係る草刈り作業中の事故が多発していることから安全管理等の啓発、多面的活動組織の広域化推進に加え、先端技術を活用した「スマート農業」の情報を提供するために開催しました。クボタアグリサービス株式会社様(以下「クボタ」という)のご協力のもと、ラジコン草刈り機及び農業用ドローンの実演を行いました。研修会には、土地改良区や交付金組織などから数十名が参加しました。

始めに、当部の職員から共同活動中の事故発生状況及び安全活動へのポイント、引き続き市職員から多面的活動組織の広域化推進について参加者に説明しました。

次に、ラジコン草刈り機の実演として、クボタのラジコン草刈り機 ARC-501 の紹介を行いました。このラジコン草刈り機は最大傾斜角 40°、操縦者から約 80m の距離まで草刈り作業が可能で、コントローラー1台で操縦可能なシンプルなものとなっています。今回、排水路の法面(傾斜角約 33°)の草刈りを実演しました。研修会参加者も含め数人ほど操縦を体験し、「コントローラーの操作がシンプルで操作しやすい」と操作性の良さを実感していました。その後、農業用ドローンによる散布の実演を行いました。本来は農薬を散布しますが、今回は水道水を使用し、手動操作から自動操作までの実演を行いました。参加者からは「ラジコンヘリよりも騒音が少なく、早くて正確に散布できる」との意見がありました。一方で「ドローンを飛ばすためのバッテリーや充電器が高額である」との意見もありました。

今後も当部では、このような研修会等をとおして、多面的活動の安全性の確保や組織の広域化推進及びスマート農業の普及活動を進めていきます。



▲研修会説明の様子



▲ラジコン草刈り機実演の様子①



▲ラジコン草刈り機実演の様子②



▲農業ドローンによる散布実演の様子

■「田んぼダム」への取り組みに向けて

令和3年12月14日及び15日に、農地整備事業新規採択要望地区である「古宿地区」及び「内ノ目地区」の2地区で行われた推進協議会等において、「田んぼダム」の取り組みに向けた活動などを説明しました。

「田んぼダム」とは、田んぼが元々持っている水を貯める機能を活用し、排水量を抑制・調整することで、農地や市街地の洪水被害軽減を図る取り組みです。一般的には、田んぼから排水路に水を落とすための落水柵に、元々の穴より小さい穴や溝のある「堰板(調整板)」を設置し、排出量を抑制することで、排水路への急激な放流を制限します(P2 下2枚の写真参照)。近年、頻発する豪雨災害の軽減を図るため、「流域治水(※)」の一つである「田んぼダム」の取り組みは、地域の防災力強化に繋がる効果的な対策となります。

また県内では、大崎管内で、県や大崎市、各関係土地改良区、集落組織が会員となり、令和3年6月14日に「宮城県田んぼダム実証コンソーシアム」を設立し、取り組みを推進しています。コンソーシアムは、大崎市古川の千刈江地区にて「田んぼダム」の導入促進・効果検証モデル事業をダムの効果や適地の検証を行うとともに、普及に向けた多様な課題を積極的に解決するために設置されたものです。

登米管内においても、市、各土地改良区、耕作者等の地域関係者に「田んぼダム」の有効性について説明し、合意形成を進めながら、農地整備事業や多面的機能支払活動組織等においても取り組みが普及するよう努めていきます。

※流域治水：気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、堤防の整備、ダムの建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域（雨水が河川に流入する地域）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定される地域）にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方です。



▲古宿区画整備協議会による説明の様子



▲内ノ目地区ほ場整備事業担い手会議による説明の様子



←通常の排水と田んぼダム仕様の排水の違い

排水柵比較（ロート型堰板）

通常の排水柵

田んぼダム型排水柵
(ロート型堰板設置)

←通常の排水柵と田んぼダム仕様の排水柵の違い



■農地整備事業新規採択要望地区の現地調査が行われました

令和3年10月21日に登米市東和町錦織地内の「内ノ目地区」、令和4年2月10日に登米市中田町上沼地内の「上沼桜場地区」の現地調査が関係機関参加のもと行われました。

両地区ともに、昭和中期の耕地整理により、10a区画に整備された小区画農地で、大型の農業用機械のすれ違いが困難な農道幅であるほか、水路の法面浸食や漏水被害及び施設の老朽化等により維持管理に支障が生じています。将来、安定した農業経営が継続できるよう補助事業を活用して農地整備を行いたいとの地元要望があり、令和8年度の事業採択を目指している地区です。

今回の現地調査には、地元推進委員のほか、関係機関である登米市、関係土地改良区（登米市東和町土地改良区、北上川沿岸中田地区土地改良区）、県東部地方振興事務所及び当部の職員が参加しました。当日は、地区の現状について現地調査を行い、問題点（小区画農地、狭小な農道幅、施設の老朽化等）の洗い出しや整理、情報共有を行うことで、改めて農地整備事業の必要性を再認識しました。

両地区とも、農地整備事業の実施に向け地区ごとに推進委員会を設立し、「地域営農構想」等を作成し、農地整備事業の採択前に行う調査事業に対する地元同意は100%を達成しています。

今後も、担い手や高収益作物の選定等を行い、農地集積を推進するとともに、関係機関と連携して農地整備事業を契機とした地域活性化の実現に向けた取組みを進めていきたいと思っております。



▲「内ノ目地区」現地調査の様子



▲「上沼桜場地区」現地調査の様子

■令和3年度登米地方農業水利施設ストックマネジメント推進会議を開催しました

令和4年2月9日に、登米管内の農業水利施設ストックマネジメント(※1)の推進を目的とした、「登米地方農業水利施設ストックマネジメント推進会議」を登米市、管内10土地改良区を対象に登米合同庁舎で開催しました。

会議では、第3期みやぎ食と農の県民条例基本計画及び第3期みやぎ農業農村整備基本計画等に基づいた農業水利施設のストックマネジメントの進め方のほか、今年度多発している農業水利施設の突発事故発生状況とその対応事業等についての説明を行いました。また、宮城県土地改良事業団体連合会の渡辺氏を講師に、「農業水利施設の省エネルギー化対策の手引き」について説明していただきました。PLC(※2)やインバータ(※3)等を導入することで省エネ化に繋がり、電気料金等維持管理費の負担軽減になります。

登米管内では約8割の農業水利施設が標準耐用年数を超過し、老朽化が進行しているため、農業水利施設のストックマネジメントが必要となっています。

今後も定期的に推進会議を開催し、登米市及び管内土地改良区と連携を強め、農業水利施設のストックマネジメントの普及及び推進を図っていきます。



▲会議の様子

- ※1 スtockマネジメント：「施設の機能診断に基づく機能保全対策の実施を通して、既存施設の有効活用や長寿命化を図り、LCC(ライフサイクル)を低減するための技術体系及び管理手法」のことです。
- ※2 PLC：(Programmable Logic Controller)の略称で、プログラム可能な論理回路の制御装置という意味。プログラミング言語を使用することにより、従来の回路ではできなかった複雑な制御ができるようになります。
- ※3 インバーター：直流または交流から、周波数の異なる交流を発生させる電源回路、またはその回路を持つ装置のことである。逆変換回路、逆変換装置などとも呼ばれる。制御装置と組み合わせることなどにより、省エネルギー効果をもたらすことも可能なため、利用分野が拡大している。

■古宿区画整備協議会が開催されました

令和3年12月14日に、登米市迫町で古宿区画整備協議会が開催されました。本協議会は、令和6年度に、農地整備事業の新規採択を目指す古宿地区(迫町北方地内・南方町新川西地内)において、地域として将来の営農構想を実現させるための具体的な方策を検討し、合意形成を図ることを目的としております。当日は、協議会役員のほか、登米市、迫川沿岸土地改良区、県登米地域事務所の職員の計23名が出席しました。

古宿地区は、昭和50年代に30a区画を標準として整備されましたが、現在は、大型農業機械ではすれ違いに苦勞する道路幅であったり、水路や施設の老朽化等の問題が発生しています。そのような地域が抱える問題を解決し、将来の安定した農業に取り組めるよう再整備を計画しており、令和6年度の事業採択に向け、今年度から協議会、市、土地改良区及び県の関係機関が連携して具体的な協議を進めています。今回の協議会では、田んぼダムの取組や区割り計画、今後の推進スケジュール等について、意見交換を行い共通認識を高めました。



▲古宿地区協議会の様子

■古宿地区の現地調査・測量を実施しました

令和3年11月から令和4年1月にかけて、古宿地区の現地調査(水準測量、土質調査等)を登米市職員と当部職員で行いました。古宿地区のように、過去に農地整備事業を行った地区では、過年度事業で作成した図面を現況図として活用することで、事業採択前に行う調査計画事業の作業量を減少させることが可能となり、作業期間の短縮や事業費削減など大きなメリットとなります。今回の調査は、過年度事業の図面等では不足する地区内の地盤高や土質状態などのデータを補完するために実施し、併せて、当部の若手職員の実務研修の場としてスキルアップへの取組も行いました。調査結果については、次年度以降に設計を行う業者に引き継ぎ、本格的な図面などの作成に活用されます。

当部では、引き続き古宿地区の事業採択に向け、業務を進めていきます。



▲古宿地区の土質調査の様子



▲古宿地区の測量の様子



宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所農業農村整備部 広報広聴委員会 (編集:管理調整班)

～復興へ 頑張ろう！みやぎ～



〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5

Tel : 0220-22-5169 Fax : 0220-22-6015

E-mail : et-tmnnbkt@pref.miyagi.lg.jp

URL : <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin/ns/>

こちらからも
アクセス出来ます!!

